

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	令和8年度第1回武蔵村山市地域公共交通協議会運賃部会（市内循環バス「MMシャトル」）
開 催 日 時	令和8年7月30日（木）午前11時15分から午前11時45分まで
開 催 場 所	市役所4階 401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：木島部会長、遠藤部会員、川村部会員、前田部会員 事務局：交通企画課長、交通企画係長、同係主事
報 告 事 項	武蔵村山市地域公共交通協議会運賃部会（市内循環バス「MMシャトル」）の進め方について
議 題	1 市内循環バス「MMシャトル」の運賃改定について 2 その他
結 論 （決定した方針、残 された問題点、保留 事項等を記載する。）	議題1について 市民意見公募（パブリックコメント）については、事務局案のとおりとし、協議会への報告事項の確認は部会長一任とする。 議題2について 事務局より今後のスケジュールについての説明を行った。
審 議 経 過 （主な意見等を原則 として発言順に記 載し、同一内容は一 つにまとめる。） ◎：会長 ○：委員 ●：事務局	報告事項 武蔵村山市地域公共交通協議会運賃部会（市内循環バス「MMシャトル」）の進め方について 【事務局説明】 ● 資料1に基づき説明 【意見、質疑等】 ◎ 意見・質問等はあるか。 ○ なし。 議題1 市内循環バス「MMシャトル」の運賃改定について 【事務局説明】 ● 資料2に基づき説明 【意見、質疑等】 ◎ 質問等はあるか。 ○ 運賃改定の内容については、路線バスの運賃に合わせるということで問題ない。交付金、補助金に関しては、今の説明のとおり、欠損額の補填ということになっていて、令和7年度には約1億8百万円の補助金が支払われた。しかし、実際のところは立川バスでも約48万円の負担が発生した。車両の修理費がかさんだことが原因であった。補助金が満額支払われていないが、安全性の確保のために修理をしているため、そこに関しては満額の支払いをいただきたい。一方で、補助金の支払い状況について、過去6年間で遡ってみると、令和4年度から令和6年度までは、交渉を行って欠損額を満

額受給しているが、令和3年度は当初の欠損額が3千5百万円、令和2年度が当初の欠損額が2百万円で、補助金を満額はもらっていない状態である。そういった状況の中、補助金ばかりに頼ってはいけない部分もあるかと思う。東京都シルバーパスは、大多数の自治体のコミュニティバスでは使えないようになっている。東京バス協会が、東京都から受託されてシルバーパス関連業務を行っているが、仮に武蔵村山市でシルバーパスを使用できたとしても、立川バスには補填がないため、シルバーパス利用者は無料で乗せていることになる。運行に係る経費を、補助金で補填しているところで、更にシルバーパス利用者に対する補助金を出すのはおかしいのではないか。そこで提案だが、運転士の人件費、車両の修繕費等が高騰していることや、公平性の観点からも、シルバーパス利用者には通常運賃を支払ってもらわなければならない。

- 令和7年度の補助金については、指摘をいただいたとおりである。例年市内循環バスの運行経費は、翌年度の運行経費の見積りの提出を受け、精査の上、予算要求を行い、満額予算化されている状況である。その上で、補助金交付要綱に基づき、交付申請をいただき、交付決定を通知し、年度終了後に実績報告をいただき、金額を確定した後翌年度に支払うこととなっている。

令和7年度については、令和8年4月に実績報告を受けたが、それが予算額を上回っていたため、予算額を限度として支払った。市としては、予算に上限を設けてそれ以上払わないという意向はない。今回は時期的に予算を補正することができなかった。今年度以降については、運行経費が予算額を超えそうになった場合、市に連絡をいただきたい。

運賃について、シルバーパス利用者は無料としているところだが、先ほどの提案は意見として承る。今後、委員とも検討していきたいと考えている。

- 検討とは具体的にどういったことか。先ほどの協議会でも、色々と提案したのにも関わらず、結局検討ということになる。シルバーパスについては、この秋からPASMOへの移行が始まって、そのうちに、多摩都市モノレールでもシルバーパスが使えるようになるという話もある。当社でも今後かなりの影響が出るのが予想されるため、考えなければいけない部分である。現状、シルバーパスの補助金がもらえていないのに、無料で乗せていることに関して、武蔵村山市でも考えていただきたい。
- MMシャトルの運行補助金について確認させていただきたい。修繕費も必要があれば支払うのか。
- 予算取りの段階で、その費用も計上してもらっているが、原価が上がっている中で、一年前の数値を使用して算出せざるを得ない状況のため、年度途中で原価の見直しをしないと、こういった事態に

	なる。 ○ なるべく運行事業者の負担とならないよう、武蔵村山市と事業者で調整いただきたい。 シルバーパスに関しては、今後PASMO化されて、今よりも正確な利用者数が出るようになると、事業者への補助金の配分方法も変わるかもしれない。 ○ 現在、シルバーパスは、1人当たり年間で2万510円使う見込みで、補助金が支払われている。補助金の配分方法であるが、7割は走行キロの比率を基に各事業者に振り分けられ、3割はコロナ禍前に行われた大都市交通センサスを基に、輸送実績を出して振り分けられている。 10割全部なのか、3割の部分なのかは分からないが、シルバーパスの着券額を各社に配分することになるということも考えられる。年間で2万510円というのは、月に数回しか乗らない計算になって、おそらく計算で設定された金額は見直されていない。今後PASMO化された際、精査された金額が出て、現行の総額を上回った場合に、その予算額が用意できるかどうかは東京都次第になる。 ○ 東京都の予算の話になってくるので、業界として必要に応じて要望していただきたい。 資料1で、運賃部会の結果を協議会で報告することになっているが、協議会で覆されることはないのか。運営要領第2条の「調査研究」という記載をどう捉えたらよいか分からない。 ● 運賃部会の結果を覆されることはない。 ○ 運賃に関しては、改定に賛成である。しかし、近隣市よりも運賃設定が高い。市民には、路線バスの運行を圧迫しないために、初乗り運賃に合わせて運賃設定をしているということを周知していただきたい。 一方で、シルバーパスについては、近隣の東大和市、瑞穂町は使えないため、武蔵村山市だけが使うことができるのは大きなメリットである。シルバーパスの無料施策をやめて、税負担の平等性を保つべきなど様々な意見はあるかと思うが、武蔵村山市という地域柄と、既にシルバーパスを導入していて、今更やめるのは負担になるというところがある。運賃改定の際には、シルバーパスが利用できるということを周知すれば、値上げを理解していただける市民も多くなると思う。 ● 貴重な意見として頂戴する。 ◎ それでは、事務局は、本日の検討内容を踏まえ、協議会で報告で
--	---

	きるよう整理をしていただきたい。 なお、協議会への報告事項の確認については、部会長一任として よいか。 ○ 異議なし。 議題2 その他 ◎ 委員や事務局から何か話はあるか。 ● 事務局より今後のスケジュールを説明する。 資料3に基づき説明 【意見、質疑等】 ◎ 質問等はあるか。 ○ 質問なし。 ◎ それでは、これをもって、令和8年度第1回武蔵村山市地域公共交通協議会運賃部会（市内循環バス「MMシャトル」）を閉会する。
会議の公開・ 非公開の別	☒公開 ☐一部公開 ☐非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 傍聴者： 0名
会議録の開示・ 非開示の別	☒開示 ☐一部開示(根拠法令等：) ☐非開示(根拠法令等：)
庶務担当課	都市整備部 交通企画課（内線：273）